

テッポウユリの二度切り栽培における調査研究

第4報 球根露出処理の時期が再出芽の発生形態・発生時期および発生率に及ぼす影響

吉田徹生・*松野孝敏・**長友信一（福岡県農業技術課・*福岡県朝倉農業改良普及所・**福岡県宗像農業改良普及所）

YOSHIDA, T., T. MATSUNO and S. NAGATOMO : Twice Harvesting of Easter Lily. 4. Effect of Exposing Time of Bulb on Daughter Bulb Sprouting

筆者らはこれまでテッポウユリの二度切り栽培技術の確立と普及に当たってきたが、現在の栽培体系では2番花収穫時期の調節と品質の向上が解決を要する課題となっている。本報では第3報を受けて早期球根露出処理を行った結果、上記の課題解決に対して有効であったので報告する。

1. 試験方法

供試品種は沖永良部島産の“ひのもと”球根サイズはM球、作型は年末出荷型を用いた。1982年9月9日に定植し、栽培管理は当地慣行で行った。処理は球根の上部1/2を露出した後に水洗した。処理日は第1表に示した。最低温度は1983年2月10日以後10℃に管理した。試験は福岡県甘木市、現地の連棟鉄骨ビニルハウスで行い、1区100個体を用いた。

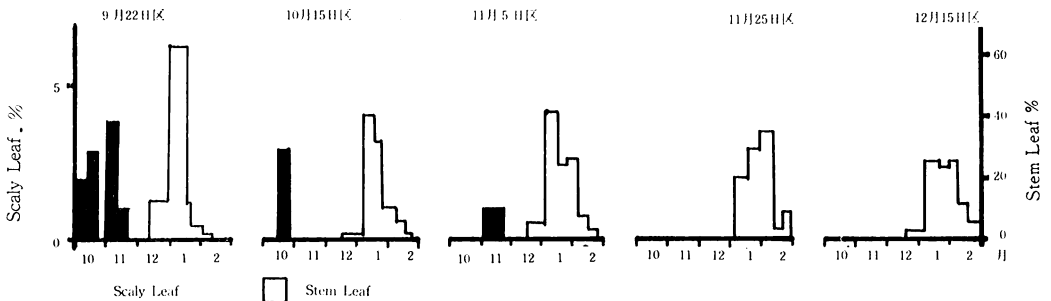
2. 結果および考察

球根露出処理の時期が出葉形態に及ぼす影響をみると、Scaly Leaf形態での出葉処理が早いほど多い傾向がみられた。Stem Leaf形態での出葉はすべて切花後に発生した。

球根露出処理の時期が出葉時期に及ぼす影響をみると、

処理が早いほど出葉時期が早くなった。80%の出葉率でみると、9月22日処理は1月12日処理（慣行）に比べて41日早く出葉した。さらに、最終抽たい率は球根露出処理の時期が早いほど高い傾向があった。また、2番花収穫時期に及ぼす影響をみると、4月30日までの収穫率は9月22日処理が83%、1月12日処理（慣行）が38%となり、球根露出処理の時期が早いほど2番花の収穫時期が早くなった。

以上の結果から、球根露出処理に対して敏感な反応を示す発育ステージは9月下旬（花芽分化直後）と12月下旬（切花直後）であることがわかった。また、この両ステージにおける再出芽の発生形態は全く異なり、各々の発生要因は異なるものと考えられる。さらに1番花の花芽分化時に行う早期球根露出処理は2番花の発生を早めて、その生育期間を拡大することがわかった。このことから早期球根露出処理は再出芽後の温度管理と組み合わせることにより、2番花の収穫期の前進とともに品質向上に対しても有効であると考えられる。



第1図 球根露出時期が出葉形態と時期に及ぼす影響

第1表 球根露出時期が出葉形態と時期に及ぼす影響（%）

調査日 月/日	10/5	10/15	10/25	11/5	11/15	11/25	12/8	12/15	1/5	1/18	1/25	2/8	2/16	2/28
9月22日	(2)**	(4)	(7)	(7)	(11)	(12)	(12)	(12)	16(1)	80	92	97	99	99
10 5		(2)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	(4)	13(1)	59(1)	80	94	97	97
10 15			(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	(3)	1 (2)	52	84	94	99	100
11 5						(1)	(1)	(1)	4	45	68	93	99	100
11 25										20	49	85	88	97
12 15									2	28	52	77	88	94
1 12*		(1)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	14	36	71	74	84

※慣行区 ※※（ ）内はScaly Leaf率，他はStem Leaf率